

# 總願寺(加須市)

そうがんじ

これは改修された不動ヶ岡不動尊總願寺の山門





# 新心寺大改修事業の概要と計画



## はじめに

永年にわたる前住僧侶の方々は、はじめご修行の目標としての想いを今持たずとも、この山に於ける御神の御徳のためにここに御成の大改修事業を遂行したく存じます。つきましては、広く皆様方のお力添えを賜りたく、伏してお願い申し上げます。



## 事業計画

- 山門改修
- 平輪坐席網替え
- 大日堂改修
- 境内整備・廻廊移設
- トイレ新設
- 回廊式庭園整備
- 緑化修繕事業
- その他整備

# 不動ヶ岡不動尊 總願寺 平成の大改修計画



山門改修のイメージ

## ご挨拶

永年にわたる檀信徒の方々をはじめご参拝の皆様方の想いを今現実のものとし、当山の更なる興隆のためにここに『平成の大改修』事業を遂行したく存じます。つきましては、広く皆様方のお力添えを賜りたく、伏してお願ひ申し上げます。



## 事業計画

- 山門改修
- 不動堂屋根替え
- 大日堂改修
- 境内整備・鐘楼移設
- トイレ新設
- 回遊式庭園整備
- 緑化修景事業
- その他整備

正面は不動堂



不動堂/江戸時代建立/加須市指定文化財



加須市指定有形文化財

そらがんじふどうどう  
總願寺不動堂

昭和五二年六月 指定

總願寺不動堂は、江戸時代の天保年間に建てられた加須市における代表的な木造建築物である。桁行五間、梁間五間の市内では数少ない大規模な江戸時代の社寺建造物である。

設計・建築は、羽生市川俣の三村正利であり三村家は、羽生で代々宮大工を受け継いできた家柄で、明治二五（一八九二）年に八八歳でなくなるまで数多くの社寺建築に携わった。三村家に伝わる不動堂の側面図は、羽生市の指定文化財になっている。主な建築物としては市内三俣の龍藏寺本堂（加須市指定文化財）、群馬県板倉町の雷電神社本社（群馬県指定文化財）が知られている。

平成二四年三月

加須市教育委員会













背面



鐘樓



さまざまな石造物



5本の標柱にはそれぞれ「散蓮華模様青石塔婆」、「總願寺不動堂」、「俱利伽羅不動剣」、「黒門」、「芭蕉翁句碑」と記されている/  
いずれも加須市指定文化財



### 不動ヶ岡不動尊総願寺の由来

仁和二年（八八六年）秋、第五十八代光孝天皇は重い病にかかれ、どんな名医、妙薬も少しも効目がなく、日に日に御重態になられるはかりであった。そこで三井寺の開山、智證大師（弘法大師の甥）が、みことのりにより病氣平癒を不動明王に御祈願申し上げたところ、たちどころに病氣がなおられたので天皇は大師に不動明王の御尊像を刻ませ、同年冬、宮中の仁寿殿で開眼供養し、紫宸殿に安置して歴代天皇の守り本尊とされた。ある時、宮中の役人が明王の宝剣を持ち出して自分のものにしようとしたので明王を御守護申し上げていた堂守は、ある夜ひそかに明王を背負って生まれ故郷の吉見領へ逃れ飯堂を建てて安置した。

長暦三年（一、三一九年）大洪水があり、付近一帯は泥海と化し御尊像はその流れの中を漂い、この地へおつきになられた。里人達は御尊像の尊さに一同ひれふして、明王をおまつりし当時岡村と言われていた地名を不動ヶ岡と変えた。

その後元和二年（一、六一六年）に高野山の総願上人がこの地に来られ不動明王の御靈験を賛えて玉崎山総願寺を建立し、明王を御守護申し上げた。

以来今日まで不動明王を尊崇して参詣する善男善女の数多く、関東三大不動明王の随一として、信仰を集めている。

昭和五十五年三月

加須市



市指定有形文化財

## 俱利迦羅不動劍

昭和三十年七月指定

台座は鉄製で、龍及び剣は銅製で、高さは七十六cmである。剣には、「羽生領不動岡村玉島山不動院惣願寺、元文四年九月吉日佐野天明町住大工長谷川弥市藤原秀勝作之」とあり、一七三九年八代將軍徳川吉宗の時代の奉納品と考えられる。

俱利迦羅不動劍は、岩の上に立ててある剣に不動明王の化身である龍が巻きつき、剣を呑みこもうとしている様子を示している。

昭和五十九年四月

加須市教育委員会

これは大日堂



ここに加須市指定文化財「散蓮華模様青石塔婆」がある



緑泥片岩によるもので鎌倉時代末期造立という



また、その隣には俱利伽羅不動尊があった





「散蓮華模様青石塔婆」についての説明板



さて、これが加須市指定文化財「黒門」





行田市の忍城にあった北谷門をここに移築したもの/江戸時代末期建造のもの



加須市指定有形文化財

## 黒門

昭和三五年九月八日 指定

この黒門は、忍城の北谷門を移築したものである。忍城は文明年間（一四六九～八六）に築城され明治六年（一八六八）に取り壊されるまでの約四百年間続いた。

黒門は、行田から熊谷に抜ける果道工事を請け負った不動岡在住の土木請負師田村重兵衛に払い下げられ、重兵衛が日頃信仰する總願寺に奇造したものである。黒門は、総櫓造りで、門扉は一枚板からできている。門扉上部の欄間の構造が忍城主松平氏の菩提寺である桃林寺本堂の欄間と同様であることから天保一三年（一八四二）の建造と伝えられる。忍城の現存建造物としては高麗門（行田市）とこの黒門のみである。

平成一七年三月

加須市教育委員会



境内側から見る



これは赤門



これは観音堂



さまざまな石造物がある









## 参考ホームページ

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B8%BD%E9%A1%98%E5%AF%BA>

<http://souganji.com/keidai.html>

<http://www.sainokuni-kanko.jp/blog/200911/58.html>

[http://members2.icom.home.ne.jp/70little\\_rascals0201/saitama\\_kikaku/kazo/kazo\\_hudo/saitama\\_kazohudo02.html](http://members2.icom.home.ne.jp/70little_rascals0201/saitama_kikaku/kazo/kazo_hudo/saitama_kazohudo02.html)

<http://www.geocities.jp/tsukayan0112/joukan-saitama/kuromon-souganji-kazo/kuromon-souganji-kazo.html>

# 不動ヶ岡不動尊總願寺

